

わくわくソーイング ～児童の実態把握からの取り組みの工夫～

家庭 第5学年
志賀町立土田小学校・教諭

1 事例の概要

(1) 児童の実態

生活技能に関するアンケート結果から、お手伝いはよくしているが、生活に必要な技能の習得にはかなり個人差があることが分かった。包丁や洗濯機を使いこなしている子もいれば、ほとんど使ったことがない子や学校のお楽しみ会での料理作りで使ったことがあるという子もいた。また、「布を用いて製作する」という経験はほとんどの子がないことが分かった。

また、本題材の基礎・基本と関わった児童の実態を把握するために行ったアンケートの結果、ほとんどの児童が、これまでに針と糸を使った経験がないということが分かった。

(2) 取り組みの重点

家庭科のねらいと本学級の児童の実態から、以下の3つを重点として実践に取り組みたいと考えた。<①題材の基礎・基本の明確化 ②個に応じた学習指導の工夫 ③評価方法の工夫改善>

A-1 アンケート

2 実践内容

(1) 本題材の基礎・基本

物を作る楽しさや作った物を日常生活に活用する喜びを味わうとともに、裁縫用具の安全で適切な使い方を理解すること、手縫いの基礎的な技能を身に付けることを主なねらいとしている。特に、手縫いの基礎的な技能の一つである並縫いについては、製作を通して定着させたい。物を作る楽しさや活用する喜びを味わうことにより、製作意欲がわき、より確かな技能として身につけていくと考える。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 題材構成の工夫

初めて裁縫用具を使う子ども達もほとんどなので、本題材の基礎・基本である裁縫用具の安全で適切な使い方の理解と手縫いの基礎的な技能の習得を確実に定着させるため、特に二次において、次の点を工夫した。

- ア 家庭・学校生活の中から課題を見つけ生活に活用できる製作物であること～ネームカード作り～
- イ 一人一人の考えが表現できるような視点を持たせたり、互いの思いや願いを表現した作品のよさを見合ったりする場を設定すること。～フェルトのマスコット作り～
- ウ 習得した技能を活用して工夫できる製作活動であること。～マイふきん（さしこ）～
- エ 個に応じた練習量が確保できること。～ボタンつけ～

② 個に応じた学習指導の工夫

実践的・体験的な学習活動を通して自分の思いや考えを生かし、色々と工夫しながら基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせることの意義は大きい。その際、一人一人が基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図るため、個々の状況を的確に把握することが大切である。そして、お互いのよいところを認め合い、学び合う場を設定し、個に応じた学習指導に生かしていった。

- ア 学習形態の工夫
- イ 学習環境の工夫

③ 評価方法の工夫

基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るためには、ねらいに対して一人一人の児童が、どこまで到達しているかを教師が把握することが前提となる。そのためには、個を適切に把握するための評価方法の工夫が必要である。そして、指導と評価が一体化していること、具体的な児童の

姿としてのねらいと評価になっているということが重要となる。そこで、次の点を工夫した。

ア 学習展開における評価場面と評価方法

イ 多様な評価方法

ウ 評価規準の吟味と教師の評価力の向上

B-1 基礎的な技能の習得を図るための指導の系統性	B-2 題材構成	B-3 学習形態
B-4 学習環境	B-5 評価規準の吟味と教師の評価力の向上	B-6 多様な評価方法

3 指導の実際

＜本時の展開 10時/12時＞

(1) 題材名

「世界に一つだけの小物をつくろう」

(2) ねらい

よりよい作品を製作するために、目的に応じた縫い方を考えたり、自分なりに工夫したりできる。

(3) 評価規準

よりよい作品を作るために、友だちの意見を生かして工夫している。(創意工夫)

過程	学習活動	◇支援 ☆評価規準〔方法〕
話し合う	<p>3. 同じ小物を作るグループで、小物作りをする上で大切な視点ごとに話し合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが工夫した点についてまず発表する。 ・互いに製作途中の小物に触れながら、視点ごとに付箋に書き出し、話し合っていく。 <p>4. 友だちから学んだことをワークシートにまとめる。</p> <p>「目をボタンにしてみてもは」と言われ、なるほどと思った。</p> <p>「なみぬい」でまちをつくってもうまういかなかったけれど、「かがりぬい」の方がいいのではとアドバイスをもらい、やってみようと思う。</p>	<p>◇課題別グループで話し合うことにより、お互いの製作方法に関心をもたせる。</p> <p>◇小物に触れることにより、そのよさなどに気づかせる。</p> <p>◇よかった点についてはピンクの付箋に、もっと工夫したらよい点については黄色の付箋に書き出すことにより、話し合いを深めさせる。</p> <p>☆よりよい作品を作るために、友だちの意見を生かして工夫している。</p> <p>〔観察・ワークシート〕</p>

C-1 題材の指導計画と評価計画	C-2 本時の展開	C-3 本時のワークシート
-------------------------	------------------	----------------------

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 1学期の心に残るベスト3を調べたところ、「さしこのマイふきん作り」や「小物作り」、「ゲストティーチャーとのボタンつけ」など、家庭科の製作に関することを挙げた子どもが半数以上もいた。このことから、物を作ることへの興味・関心が深まったことが分かった。
- ② 縫い方の基礎・基本である「玉結び」「玉どめ」「なみぬい」「ボタンつけ」を全児童に定着させることができた。
- ③ 生活ノートや「私にまかせてカード」、学習後の児童の感想などから、家庭生活を楽しくしようとする態度が見られるようになった。

(2) 課題

- ① 技能面はよくできているが、理解面が十分でなかったり、理解面はよくできているが、関心・意欲・態度面が十分でなかったりする児童が見られたので、題材における観点ごとの基礎・基本を明確にし、指導に生かしていきたい。
- ② 学習したことを家庭生活に積極的に生かし、家庭生活を楽しくよりよくしようとする態度が広がっていくような個に応じた学習指導の工夫に取り組んでいきたい。
- ③ 「十分満足できる」「おおむね満足できる」を判断する視点をより明確にしていくことで、教師の評価力を高め、指導法の改善につなげていきたい。